

令和 4 年 9 月の解説（週間天気予報）

【9 月の天候状況】

上旬は、沿海州から千島付近で高気圧の勢力が強く、北海道は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、北日本日本海側の日照時間はかなり多くなりました。一方、東日本と西日本は前線や台風からの湿った空気の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多くなりました。台風第 11 号は 8 月末から 9 月上旬前半にかけて沖縄付近で停滞し、大型で非常に強い勢力となって 5 日から 6 日にかけて東シナ海を北上しました。このため、沖縄・奄美と九州地方、四国地方を中心に、大雨や大荒れとなった所がありました。沖縄・奄美では台風の影響で降水量平年比は 277%と、統計開始以降、9 月上旬として 1 位の多雨となり、日照時間はかなり少くなりました。平均気温は、南から暖かい空気が流れ込みやすかった北日本、東日本、西日本で高くなりました。特に 4 日から 6 日にかけては猛暑日を観測した所が多く、6 日には金沢（石川県）で日最高気温 38.5℃と、統計開始以降、通年で 1 位タイを記録しました。

中旬は、北日本は、高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しました。東日本は、旬の中頃まで高気圧に覆われやすく晴れた所が多くなりました。西日本は、旬の後半を中心に台風や湿った空気の影響を受けやすく、降水量が多くなりました。沖縄・奄美は、旬のはじめに台風第 12 号、旬の終わりに台風第 14 号が接近したため、降水量はかなり多くなりました。台風第 14 号は 18 日に鹿児島県に上陸し、台風を要因とする特別警報が発表されました。また、19 日から 20 日にかけて山陰から東北地方を通過したため、西日本から東北地方にかけて大雨や大荒れとなった所がありました。暖かい空気に覆われやすかったため、平均気温は、北日本、東日本、西日本でかなり高く、西日本の平均気温平年差は +2.5℃と、統計開始以降、9 月中旬として 1 位の高温を記録しました。12 日から 15 日にかけて九州地方を中心に、18 日から 19 日にかけて北陸地方を中心に、フェーン現象の影響もあったため、猛暑日を観測した所がありました。

下旬は、北日本では、24 日に前線が通過した影響でまとまった雨となったほかは、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。東日本と西日本では、天気は数日の周期で変化しましたが、太平洋側を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。23 日から 24 日にかけては東海道沖を北東進した台風第 15 号の影響で東日本太平洋側を中心に大雨となり、記録的な大雨となった所もありました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。平均気温は、旬の中頃以降、全国的に暖かい空気に覆われやすく、晴れて気温が上昇した日もあったため、高くなりました。

【9 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均) は、例年値(注)よりも 10 ポイント高い 78%でした。地方別の適中率では、全国各地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均) は、全国平均で例年値よりも 0.3℃小さい 2.0℃で、沖縄で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均) は、全国平均で例年値よりも 0.2℃小さい 1.7℃で、北陸、中国、沖縄を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11月の週間天気予報の利用にあたって】

11月は、冬型の気圧配置となる頻度が次第に増え、北日本や日本海側の地方では雨またはみぞれや雪の日が多くなり、太平洋側の地方では晴れの日が多くなります。また、冬型の気圧配置では冷たい北寄りの風が吹くため、気温が下がりやすくなります。週間天気予報からは、雪の降りやすい日や気温の下がる日を知ることができますので、雪への備えや健康管理などにご活用ください。